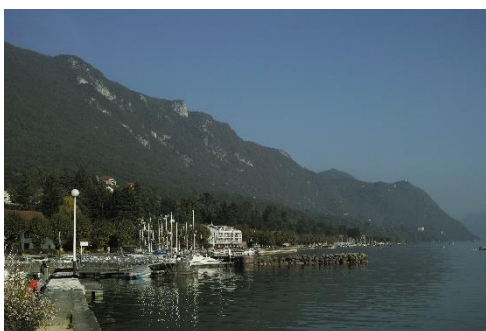




ブルジェキャンパス



ブルジェ湖



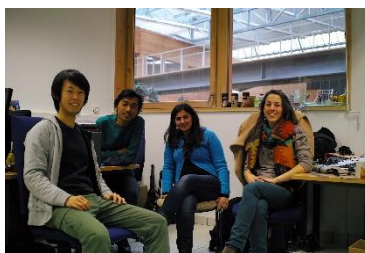
シャンペリーの街並み

国際交流の特色(大学紹介)

サボア・モンブラン大学は、1979年近隣の各種学校を統合創設された、学生数13,000人の中規模の国立大学である。8学部と19の研究所からなる総合大学で、法学、経済学、文学、社会学から、工学・科学までの幅広い領域をカバーしている。所在地は、フランスのローヌアルプ地方、隣接するシャンペリー市とアヌシー市に3つのキャンパスがあり、本部はシャンペリーキャンパスにある。2006年にサボア・モンブラン大学の2つの理工科学院が統合し、ポリテク・アヌシー・シャンペリーとなった。2000年4月に学術交流協定を締結以降、国際インターンシッププログラムによって継続的に学生の受入・派遣を行っており、共同研究と併せて相互に活発な交流が続いている。2008年には、工学部の第1回協定校訪問により、学生17名・教職員5名を派遣して交流を行った。また、2009年に日仏6大学により設置され、現在は12大学に拡大している国際メカトロニクス研究教育機構(IOREM)において、本学と共に両国側の幹事大学として、コンソーシアムの運営をはじめ、国際間の共同研究や共通教育を主導している。



教員からの声



国際インターンシップの様子

交流実績(平成25年度～27年度)

国際インターンシップ学生の受入・派遣

年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
受入	5*	3	3
派遣	2	2	1

*オープンレクチャー受講生1名も含む

学生からの声

サボア・モンブラン大学ポリテク・アヌシー・シャンペリーのPhilippe Bolon教授、Eric Benoit教授らと、2001年4月より新しいヒューマンインタフェース(HI)技術の開発に関して共同研究プロジェクトを進めています。2008年に、両研究室間を常時インターネット回線をつなぐテレビ会議システムを導入して以来、いつでも顔を見ながら研究の議論ができるようになりました。これまでに相互の研究室に多くの修士課程、博士課程の学生が滞在し、次世代HIシステムの構築に向けたマルチモーダル計測技術と情報統合技術に関する共同研究を行っています。ヨーロッパ随一の透明度を持つアヌシー湖を見下ろす高台から、真っ青な空とアルプスの雄大な景気を臨むキャンパスは、教職員にとっても学生にとっても、勉学と研究に最高の環境です。

工学部教授 澤田 秀之

私は2014年9月から5ヶ月間、国際インターンシップとしてサボア・モンブラン大学ポリテク・アヌシー・シャンペリーのLOCIE LaboratoryのSimon Rouchier先生の元で、建築用材料内における熱および湿度の移動と塩風化による材料のリスクのシミュレーションについての研究を行いました。日本での研究と全く異なるテーマであり最初はとても苦労しましたが、Simon先生から多くのアドバイスをいただき帰国までになんとか結果を残す事が出来ました。雄大なアルプスの山々と湖に囲まれたシャンペリーはフランスの中でも特に治安がよく、慣れない海外での生活を安心して過ごすことができます。またサボア大学側からの補助によりフランス語学校にも通うことができ、研究だけでなくフランス語も学んでみたいという人にもおすすめです。

工学研究科 柿本 将